



落陽

朝井まかて／祥伝社

明治45年、当時の天皇が崩御。直後、「御霊を祀る神宮を帝都に創建すべし」と言った者、「風土の適さぬ地に森蔽崇高な森を造るのは不可能」と言った者に分かれる。神宮造営の巨大なうねり。日本人は何を思い、かくも壮大な事業に挑んだのか？



すべての疲労は脳が原因

梶本修身／集英社新書

最新科学が解明した疲労の正体。疲れているのは実は脳だった！例えばこんな内容があります。「飽きた」は脳疲労の最初のサイン、もっとも疲れているのは自律神経、疲労が蓄積すると視野が狭くなるなど。軽減や改善の仕方も記されています。



金山杉俳句会報 第三九六回

薄化粧して迎火を焚きにけり セイ子
 名古屋場所うちわの風の大うねり サダエ
 羽織り物着たり脱いだり秋立てり 敏子
 彩どりの棚田を走る秋こゑ 恵美子
 追伸の長くなりしや虫の宿 よし子
 湯の宿や下駄音響き夏惜しむ 順子

かねやま紅風会

友の忌や薄日に匂ふ百合の花 荒屋 阿部 勝子
 揉む数珠も無沙汰の詫びや墓洗ふ 荒屋 関 喜美子
 軒下を占めてゆらゆら紅芙蓉 菅 越 庄司けみ子
 ゆれる萩遠き昔の浮かびくる 菅 越 庄司けみ子
 寝息にも安らぎのあり秋気澄む 七日町 青柳キエ子
 子等の声シャツに滲みて秋暑し 七日町 青柳キエ子
 立居にも気合のかゝる秋暑かな 立居にも気合のかゝる秋暑かな
 雨後の闇やと息づく虫しぐれ 雨後の闇やと息づく虫しぐれ

感動が絆の五輪盆の月 七日町 柴田 栖静
 静かなる瀬音はべらす吾亦紅 羽場 坂本 徳太郎
 刈り残す姥山百合の窓あかり 上 台 阿部 一
 唐黍や子連れ遊びの被害あと 上 台 阿部 一
 足早に過ぎる月日や秋の空 神輿過ぐあとを祓へり天狗面
 実を結ぶ稲田を待ちて雨繁し 七日町 村松 恣風
 口実は望の月なり追加酒 口実は望の月なり追加酒

新刊図書 10月

おおあたり／畠中恵
 陸王／池井戸潤
 大人の流儀6 不運と思うな。／伊集院静
 アンマーと僕ら／有川浩
 ぐるぐるパンちぎりパン／たかやちかこ
 海の見える理髪店／荻原浩
 希望荘／宮部みゆき
 暗幕のゲルニカ／原田マハ
 痛みはうつぶせで治しなさい／舟波真一・山岸茂則
 落陽／朝井まかて
 笑って付き合う認知症／榎本睦郎

森の子ども図書 130 交流サロンポスト内 12:30~17:00



『教室はまちがうところだ』

(蒔田晋治／作 長谷川知子／絵 子どもの未来社)

教室はまちがうところだ。はじめから答えが当たるとははずないんだ。これから人間になろうとしている僕らがまちがって何がおかしい、当たり前じゃないか。まちがうことを恐れちゃいけない、笑ってはいけない。まちがった意見や答えをみんなで言い合う中でほんとのものを見つけていく。そうして伸びていく。まちがったって誰かが直してくれるし、教えてくれる。困ったときには先生が教えてくれる。そんな教室を作ろう。まちがって当たり前。答えの言い合いの中でほんとのものを見つけていく。そんな教室を作っていきたいですね。